

わたしたちの人權

122

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできな
当然の権利これが「人權」です

日常生活で人權感覚を磨く3つのポイント

人權とは、私たちの日常生活にとつて欠くことのできな存在であることをご存知ですか？

例えば、「好きな服を着ること」「好きな人と結婚すること」「いろいろな宗教を信じること」などといった普段あたりまえだと思っている生活行動や思想も人權として保障されているのです。

このように人權は、私たちの生活に身近に存在し、また密接に関わっているのです。今回は、日常生活で人權感覚を磨く3つのポイントについて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

(1) 思い込みや偏見をなくしていきましよう

「女のくせに料理もできないのか」「年寄りのくせにそんな派手な服を着て」「子どものくせに生意気なことを言うな」などと、言うことはありませぬか？

これらは、日常生活の中で、つい何気なく交わしがちなものひとつです。しかし、よく考えてみると、

(2) 迷信や世間体にとらわれず、自分自身で考え、判断しましよう
物事を決めたり、判断する

これらに「女は料理ができるもの」「年寄りには地味にしておくものだ」「子どもは素直に言うことを聞くものだ」などといった思い込みが潜んでいいます。一人ひとりの個性を見るのではなく、集団やグループをひとまとめに考え、固定的なレッテルをはってしまおうのは、偏見や差別につながります。

偏見は、科学的な根拠のない話や噂などを安易に受け入れたり、物事を一面的にしかとらえずに、よく確かめようとしなかったり、自分自身で考え、判断しなかったりする態度から生まれます。

思い込みや偏見をなくすには、生活の様々な場面において、物事を正しくとらえようとする意欲、相手の立場や気持ちをわかろうとする姿勢、物事を表面的にとらえずに深く掘り下げる考え方を持つことが大切です。

とき、「科学的には何の根拠もない、おかしい」と感じて「周りの人はどう思うだろうか」といった世間体にとらわれたり、そうした考えを他人に押しつけたりする傾向がありはしないでしょうか。たとえば迷信と言われる六曜に基づいて、「仏滅の日には結婚式をあげるのは縁起が悪い」と言う人がいます。なぜ縁起が悪いのか理由はよくわからないので、周りもみんなそうしているから世間を無視する訳にもいかない・・・といったこととです。

(3) 次世代の子どもたちに人權を尊重する心を伝えていきたいと思います
家庭内での、日頃の何気ない家族の対話が、子どもに与える大きな影響を与えられます。実際、同和地区に対する差別意識や偏見は、子どもから聞かされてつくられた場合が多いのです。子どもを取り巻く大人として、子どもたちに誤った知識を教えることなく、相手を尊重する心を持つよう、普段から心がけ、言葉や行動で示していきたいでしょう。

熊本県「人權研修テキスト 同和問題編」より抜粋

最後に人權問題の解決に向けて一番大切なことは、「誰かが解決してくれる」という他人任せな考えではなく、自分の問題として捉え、行動していくことです。本誌に記載した日常生活で人權感覚を磨く3つのポイントを実践していくこともまた行動していくことにつながります。皆さんの生活の中でもぜひ実践していただき、この山都町から差別をなくし、笑顔あふれる住みやすい町にしていきたいでしょう。



書道

夜静春山空

乙未二月 邦子書

和光教室書道部の田中邦子さん(入佐)作

季節のうた

清和短歌会

年明けど夢ものぞみもわかぬまま
過古の思いに日めくる余生
赤蕪の酔漬を噛めば思い出す
恋文交わし頬染めた頃
海を越え山なみからも微粒弾
マスク頼りに早春の陣
馬見原酔山会
切り株に争ぶごとく新芽かな
阿蘇を来て九重の雪の深さかな
霜踏み新開配る六十路かな
やまなみの会「山脈」
初場所に白鵬記録をうちたてる
初日の出心清めて遙拝す
ありし日の縄綱ふ父をしのびけり
地図に載る熊延鉄道甲佐まで
幻の路線目の当たりにす
冬至日の黄色に浮かぶ湯湯がし
八十路なる吾至上の楽しみ
雨降れば誰も彼もと部屋に来る
居心地よきか我家の暖房

大塚 叢司
渡邊 民生
梶原 公希
高田 眞司
大西久美子
兼瀬 哲治
岩村ヨシ子
本田 七郎
原田 和子
本田健二郎
田代 エミ
小野 紀子

交通安全標語コンクール 入選作品(学校名は当時)

じてんしゃで ぼくもわたしも ヘルメット
交通安全標語コンクール 入選作品(学校名は当時)
藤本さくら(中島小学校3年)
交通ルール 守ってつくり
岡本絵里香(矢部高校3年)

4月の当番医
4月5日 坂本クリニック(電話 72-0210)
4月15日 伴 病院(電話 72-0029)
4月19日 野田 医院(電話 72-0307)
4月26日 矢部 広域病院(電話 72-1121)

山都町の人口
(平成27年2月28日現在)
男 7,953人 (-8)
女 8,538人 (-25)
計 16,491人 (-33)
世帯 6,663戸 (-6)
※()は前月比
※最高齢は106歳〔女性1人〕
※平成27年2月の出生者数
6人
※平成27年2月の死亡者数
23人

前号の訂正とお詫び
2月25日発行第120号の広報やまとにおいて誤りがありました。関係各位には大変なご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。
○1ページ 本文
(誤)「仁瀬本神社神楽」、「白石神楽」、「高畑神楽」、「今村神楽」の4団体
→「仁瀬本神社神楽」、「白石神楽」、「高畑神楽」の3団体
○13ページ 浜美荘もちつき
(誤)現在は十二志会はなくなってしまいましたが、
→(正)削除

編集後記
広報担当になると色んなところから連絡があります。取材依頼、情報提供、ご指導など。そんな中、先日天草の方から一通の手紙が届きました。手紙の内容は、「昭和28年(熊本市で大水害があった年)に熊本市用事があり、高千穂から歩いて向かっていた。砥用付近まで来た時に、浜町方面から来た親切なトラック運転手が熊本まで送ってくれた。お礼をしたので心当たりがある方は連絡してほしい。」との内容でした。もし心当たりがある方は、連絡をいただけたらと思います。今年度も残すところあと数日。この前、平成26年度がスタートしたような気がします。月日の経つ早さに気持ちで負けないように、来年度も頑張っていこうと思います。◎

山都町観光案内所
ギャラリー喫茶
ルポン
872-1054
~ 4月ギャラリーのご案内 ~
山都町写真コンテスト
- 10年間をふり返って -
平成27年4月1日(水) ~
水曜日定休日

この10年間の入賞作品からピックアップし、山都町写真コンテストをふり返ります。

お知らせ ◆ 第20回差別をなくす山都地区集会について ◆
本年で20回目を迎えます「5.23差別をなくす山都地区集会」は5月23日(土)に矢部中学校体育館において開催する予定です。どなたでも参加できますので、多くの町民の皆さまのご参加お待ちしております。
集会の詳細につきましては、来月号に掲載いたします。
昨年度の様子(矢響太鼓のオープニング) ▶